

プレスリリース | 2011年

2011年04月04日 [製品情報](#)

セントラルモニタ CNS-6201を発売開始

医用電子機器メーカーの日本光電はこの度、多人数モニタリングとアラーム管理機能をより充実させた、セントラルモニタCNS-6201を発売開始しました。

本製品は、病院内における「“Safety-Management”と多人数モニタリング」をコンセプトに開発され、集中治療室などを中心に一般病棟でも幅広くご利用いただけます。

24インチのワイド液晶ディスプレイを採用し、デュアルディスプレイ構成時には最大32人の患者さんの容態を迅速に把握できます。また、有線・無線の混在システムを構築することで、お客様の幅広いニーズに応えるとともに、重要なアラームを見逃さない機能も充実しました。

本製品の価格は637万円（シングルディスプレイ構成時）、737万円（デュアルディスプレイ構成時）（本体・ディスプレイのみ、オプション品別、税抜価格）。

国内で年間320台の販売を見込んでいます。本製品の主な特長は次の通りです。

1.最大32人のモニタリングで業務効率を改善

従来のセントラルモニタCNS-9601の機能・性能を踏襲しつつ、24インチのカラーワイド液晶ディスプレイを採用。デュアルディスプレイ構成時には最大32人までモニタリングが可能（標準仕様）。

2.アラーム管理機能の向上で安全管理を実現

- ・アラームの発生を見落とさないよう、ディスプレイ上部に好評のアラームインジケータを搭載。デュアルディスプレイ仕様の場合、デュアルアラームインジケータも新たに搭載可能
- ・アラーム発生時、該当する患者さんの画面枠がアラームの緊急度に応じて点滅あるいは点灯。患者さんごとに緊急性を瞬時に確認可能。
- ・好評の“アラームイベント画面”表示機能を搭載。患者さんの測定状態の経過や、アラーム発生状況の把握が可能。
- ・複数の患者さんのアラーム上下限値を1画面に同時表示。入床中の患者さんのアラーム設定状況を素早く確認。
- ・管理者のみによるアラーム最低音量の設定が可能。一般スタッフが設定できる最低音量と区別できることで、安全性が向上。
- ・緊急アラーム音を、他のアラームレベルより大きな音量に設定することで、安全性が向上。

3.バックアップ機能が充実

- ・記録媒体にRAID1※1を採用。データを同時に2台のディスクに記録し、大切なデータのバックアップが可能。ホットスワップ※2により、モニタリングを中断せずにメンテナンスが可能。
- ・磁気カードリーダー・バーコードリーダーの接続により、患者さんの属性入力作業を効率化。

●用語説明

※1 RAID1

複数のディスクをまとめて1台の装置として管理する技術方式。2台の装置にデータを同時に書きこみ、片方が破損してもシステムの稼働が可能。

※2 ホットスワップ

コンピュータの電源を入れたまま、パーツやケーブルを交換すること。

<主な製品仕様>

- 波形表示 : 心電図、血圧、呼吸、脳波、呼気CO2分圧、外部入力、脈波、FLOW、Paw、その他接続されるベッドサイドモニタと送信機による
- 数値表示 : 心拍数、VPC数、呼吸数、脈拍数、血圧、非観血血圧、体温、ETCO2、tcPO2、tcPCO2、SpO2、STレベル、FiO2、CO、CCO、人工呼吸器、麻酔ガス、BIS、その他接続されるベッドサイドモニタと送信機による
- 寸法・質量 : 本体
W115mm×H350mm×D380mm、約11kg
- : ディスプレイ
W592mm×H398mm×D71mm（突起部含まず）、約11.1kg（スタンド含む）

<製品写真>



セントラルモニタ CNS-6201

お問合せ先：営業本部 ハイケアソリューション部
TEL 03-5348-1561